Future Design

学生とともに、　先生とともに創る

Faculty Develop ment

VOL.2

Introduction

Contents

教員インタビュー

- 松木裕二教授　工学部/電子情報工学科
- 山澤一誠教授　情報工学部/情報工学科
- 藤井洋次教授　社会環境学部/社会環境学科
- 中野美香准教授　社会環境学部/社会環境学科（教養力育成センター）

Activity Report

- Q-Conference2017
- 新入生オリエンテーション
- FD Café ～教職員＆学生懇談会～
- Join-Talks
- 学生FDサミット in京都光華女子大学
- FIT-joinキックオフミーティング

編集後記

メンバー紹介

学生FDとは？

福岡工業大学における学生FD活動は、本学の授業改善を**教員・職員・学生の三位一体**で改善・向上させようとする取り組み、およびそれに関わる活動です。

学生FDスタッフは本学の授業改善を学生の視点から教職員と一緒に考え、教職員と学生を**“つなぐ”**活動によって本学での「学びのコミュニティづくり」の役割を担っています。私たちは、**学生の本音**を吸収し、学生が感じていることを教職員に伝え、また教職員が考えていることや課題を**学生の視点から**考え、それを**学生に伝える存在**として活動していきたいと考えています。

福岡工業大学学生FDグループFIT-join

FD推進機構長　下村学長より

文化を興す ベンチャーになれ

学生FDスタッフの活動は、形を変えたベンチャーです。学問の前に教員と学生は平等であると私は考えています。だからこそ、学生の視点から意見や考えを取り込んでいくことが重要であると感じています。本学の建学の綱領を私は『AIG』と呼んでいます。

Accreditation（教育の質の保証）
Innovation（価値の変換）
Globalization（グローバル化）

このような指針に基づいて人材を育てるためには、教員・職員・学生が三位一体となって取り組むことが必要であると思っています。そのために学生FDスタッフが学生の視点から大学の教育改善というベンチャーになって欲しいです。

FD推進機構長
学長　下村 輝夫

ACCWG長　松尾先生より

学生と教職員の ジョイント役に

FIT-joinが行う福工大の学生FD活動は本学なりの位置づけと目的を持っている独自性のある取り組みです。少し前まで授業改善は教員が考え、行うものであって、学生が参加するという取り組みはありませんでした。しかし、授業改善は一方方向では進展しないものです。学生の意見をどのように有効に取り入れ、授業自体の『質』の向上につなげていくかがとても重要です。教授する側である教員と受講する側である学生の両方が協力しながら授業改善に取り組んでいきたいと考えています。

負担感もあるかもしれませんが、FIT-joinの独自性を特徴として本学全体の学生の成長に寄与してほしいと思っています。

教育技術開発WG長
松尾 敬二 教授

Interview

「学び方」を知ってほしい

松木 裕二 教授

学部学科：工学部 / 電子情報工学科
研究分野：社会システム工学・安全システム
担当科目：プログラミングⅠ・Ⅱ，情報工学総合，
プログラミング演習，応用プログラミングⅠ

授業参観

プログラミングⅠ
1年前期

プログラミングⅠでは、ソフトウェア開発に必要なプログラミング技術の基礎を学ぶことができる。授業は、タイピング練習からスタート。毎回タイムを記録している。前回何を学んだか発表形式で復習。宿題の確認（プログラミング）。上手くできている人がいれば皆に共有し、本講義へ入る。実際にあるような機能を実装するために、どのようにプログラムを組めば良いかといったようなイメージしやすい問題の出し方であったように感じる。（「AをしたいからBのような機能を持ったプログラムを作りましょう」といった感じ）試験が近かったからかも知れないが、「こういう風にテストに出します」といった、試験を意識した感じが強かった。プログラムは学生に自ら考えて組ませる形であった。講義は最初から最後まで4人グループでの活動である。

Q1 授業で、「これは大切に！」と意識していることはありますか？

物事を覚える方法を知る事が一つ重要なことだと思うので、学生には、「学び方」を知って欲しいと考えています。そのために、基本的な事は授業の前に勉強し、授業では問題を解くという形を取っています。

Q2 授業の最初に行うタイプ練習にはどのようなねらいがありますか?

ねらいは2つあって、1つは単純にコンピュータの操作に慣れて貰いたいという事があります。慣れて貰ってから課題をする方が作業効率も良くなり、スムーズに授業を進められるからです。2つ目は、授業の集中へ繋げるための準備体操のような目的です。授業の最初に集中しやすい時間を設けてから授業に入ることで、集中して授業を受けやすくなるだろうと思っています。

Q3 2つのクラスを見ていて、雰囲気が結構違うなと感じましたが、先生はこのことについてどう考えていらっしゃいますか?

良くも悪くも個人個人が全体の雰囲気に引っ張られてしまうというのはあるので、どうしたら良い方にもっていけるかなというのは私も悩んでいるところです。

Q4 学生にグループで活動させているのはなぜですか？

グループで活動すると、連帯感が生まれたり周りと自分を比較できたり、様々なメリットがあるからです。

Q5 今後、授業でどのような取り組みをしていきたいですか？

今、学生が行っている事前学習が100％ではないと感じているので、そこを100％に近づけていきたいと思っています。

Q6 休日はどのようなことをされていますか？

子どもが2人いるので、休日は子どもと過ごすことが多いです。

Q7 最後に受講生や学生に伝えたいことはありますか?

福工大生の多くは大学を出た後就職をすると思いますが、そのための活動は早い段階から行った方が良いと思います。できるだけ早くから自分の特徴を考え、そして自分のキャリアビジョンを考えて行動する事が成功への道だと思います。

担当メンバーより

玉城 翔 Tamashiro Kakeru
情報工学部 / 情報工学科

松木先生の「学び方を知って欲しい」という言葉が一番印象に残りました。僕もただ学ぶのではなく、自分が一番理解できる覚え方を考えながら、学んでいきたいと思いました。

Interview

知識と知識のつながりをより濃いものに

山澤 一誠教授

学部学科：情報工学部 / 情報工学科
研究分野：画像メディア・コンピュータビジョン・CG
担当科目：コンピュータグラフィックス・画像情報処理
人工知能基礎・人工知能プログラミング

授業参観

コンピュータグラフィックス 2年後期

この授業では、コンピュータグラフィックスの基礎的な部分から最新技術まで学ぶことができる。授業の流れは始まる前に今日学ぶ内容のキーワードを提示していて、チャイムと同時に今日することの説明を行う。次に、毎回提出するミニレポートの前回分の結果を表示し、復習や質問の回答を行っていた。その後、本題では技術の実用例などの身近で具体的な事例を挙げながら授業が行われていた。授業の後半では、その日の授業内容での疑問点や感想について学生同士でGM(グループミーティング)を行い、最後に今日やった授業の復習を簡単に行って授業が終わりとなる。山澤先生は新しいことを教えるときに、身近なことに例えてくれてとても分かりやすかった。

Q1 授業を行う上で一番大切にしていることはどのようなことですか？

一番大切にしていることは、分かりやすく説明することです。その為に今、授業を行っていることがどのようなところで使われているのか等、イメージしやすいように様々な具体例を使って授業を行っています。あとは、授業が一方通行化しないように学生の表情や反応を見ながら説明等を深く行うといったことをしています。

Q2 様々な取り組みをされていると感じましたが、その工夫にたどり着くまでの苦労された点はありますか？

苦労はあまりしていません。現在の授業スタイルは今までの試行錯誤の集大成です。ただ、アクティブラーニングの導入を検討したときに、学生にとってハードルが低く、効果のあるものを考えました。その結果、導入したのがGMです。わからないところは先生に教えてもらうより、友達同士で教えあったほうがわかりやすいですよね。また、ミニレポートの分析は毎回、授業のどこで躓いているのか、どのくらい理解できているのか等を把握するために行っています。昔は手で処理しなければならなかったので時間がかかっていましたが、今はマークシートを使って効率的に処理を行っています。また、そのミニレポートに書かれた疑問等に書かれていたわからないことは調べてフィードバックすることは勿論、自分の具体例のネタに出来るように常にアンテナを張り巡らせています。

Q3 今後、授業でどのような取り組みをしていきたいですか？

今のところありません。今の授業が一つの集大成になっているので、どこをいじるということがなかなか考えられません。今は学生から授業をこうした方がいいという意見が一番欲しいです。強いて言うのであれば、他の授業との繋がりをより濃いものにしたいと思っています。

Q4 休日はどのようなことをされていますか？

力の必要な家事を行っています。基本1日中テレビがついているのでそれを聞き流しています。夜中の10時から1時ぐらいまではよくゲームをしています。最近は「地球防衛軍5」にはまっていてトロフィーコンプリートしました。

Q5 最後に、受講生や学生に伝えたいことはありますか？

何事も紐づけを意識して勉強や物事に触れてほしいです。知識は単体では使えません。知識と知識の紐づけを行うことでやっと役に立ちます。趣味や遊びでもいいので、様々なことに紐づけすることを癖づけてほしいです。

担当メンバーより

岩橋 祐介 Iwahashi Yusuke
情報工学部 / システムマネジメント学科

山澤先生の授業参観に行ってみて、学生が興味を持てるように例をたくさん出して紐づけしている工夫が印象に残りました。このように実社会でどのように活かされているのかが分かれば、興味をさらに持てるということを体感できるような授業でした。

松永 魁稀 Matsunaga Kaiki
情報工学部 / システムマネジメント学科

学生に理解してもらうために様々な工夫をこれまでにたくさん行っていて、今のとてもわかりやすい授業の形ができていました。「新しい取り組みを教えてほしい」と言われたので、これからFIT-joinとしてアイデアをどんどん出していきたいです。

Interview

いろんな経験を得るチャンス

藤井 洋次教授

学部学科：社会環境学部 / 社会環境学科
研究分野：開発経済学
担当科目：経済発展論，社会環境学Ⅱ，国際貿易論

授業参観

経済発展論
2年前期

この授業では、東アジア諸国・地域の経済発展の内容とそれがもたらす様々な影響と課題について考える。授業は予習としてあらかじめ設問を埋めている『授業シート』をもとに、グループワークを行い、それぞれのグループで出た意見を発表する。その後、講義という流れで実施される。 講義では、図やグラフなどの具体的なデータが載せられたレジュメを使用し、重要なキーワードをレジュメに書き込みながら授業が進んでいく。

グループワークは決められた時間で活発に意見交換し、講義では前回の内容の振り返り、新しい内容を先生の解説で聞き、レジュメにポイントを書き込む様子が見られ、メリハリのある授業だと感じた。

Q1 大人数の授業でグループワークを実施していたのが印象的でしたが、工夫されていることはありますか？

社会科学は人それぞれ意見が違います。社会に出たら様々な意見や見方に出会います。そこで、何をどうしてと問題解決を自分でできるようにグループワークを実施しています。授業中にグループワークが円滑に進むように“授業シート”を使います。予習として考えてきた自分の答えを多くの学生と関わって自分を客観的にみれる機会になればと思い、あらかじめ席を指定し席替えもこまめに行っています。人を尊重すること、外見ではわからないことがあること、人それぞれのアイデアを知って欲しいです。また、目的意識をもって行動する力も身につけて欲しいと思い実施の意味を伝えています。社会にでて仕事はチームワークを必要とします。だからこそ目的をもって行動する力を身につけて欲しいと考えています。

Q2 授業中授業シートだけでなく、レジュメも使用していましたがレジュメへのこだわりはありますか？

参考書の通りは嫌なので自分なりのレジュメを意識して作成しています。今、学んでいることが今の社会の動きとどう結び付いているかを理解してもらうため新聞の記事を載せています。板書だけにならないよう、ポイントを穴埋めにし解説に集中できるように工夫をしています。また、現状分析のためにグラフや図を多く載せています。毎年毎年、数字が変わるので作り直しをしています。

Q3 今後、授業でどのような取り組みをしていきたいですか？

グループワークについて、現在人数が多いので様々な学生と意見が交換できるのは良いのですがもっと全グループの意見を聞き議論を深められるようにしたいです。

Q4 休日はどのようなことをされていますか？

山登り、釣り、映画、音楽など様々です。山登りは学生の頃からよくやっています。映画は週1ペースで良く観ています。

Q5 最後に受講生や学生に伝えたいことはありますか？

4年間のうちに多様な経験を積んでください。できれば日本を出て違う文化・制度を知って欲しいです。私は昔バックパッカーで海外を旅しました。そこで知ったこと感じたことが人生の中で決断する時に選択肢をもたらしてくれました。実体験はその人の考え方の幅を作るものとなります。常に同じ場所だと刺激が減り成長できません。勉強だけでなく、様々な経験を得るチャンスがあるのが大学生の良いところだと思います。

担当メンバーより

中山 歩美 Nakayama Ayumi
社会環境学部 / 社会環境学科

実際に藤井先生の授業を受けていたのですが、参観とインタビューを通して授業の工夫や想いを新たに知り授業を受け直したくなりました。

喜屋武 咲世 Kyan Sakiyo
工学部 / 電子情報工学科

普段は学科の先生としか関わりがないので、経済の専門家としての視点からみた学生の話を伺うことができ新鮮でした。藤井先生の授業は自分で考えることの面白さを感じられ、私も履修したかったな～と思いながら受けていました。

Interview

何事も経験値 とにかく行動

中野 美香 准教授

学部学科：社会環境学部 / 社会環境学科(教養力育成センター)
研究分野：教育心理学・認知科学
担当科目：知と教養，コミュニケーションの心理学
キャリア形成，コミュニケーション基礎

授業参観

知と教養
1年前期

「知と教養」は、学部・学科混成で講義を展開しており、様々な学生と交わることができる。さらに、4人の先生が2週ずつ違うテーマで講義を行う。その後、自分の興味があるテーマを選び、そのテーマの中で自分で問題を見つけ、より深く調べていく。また、自分が興味あるものを選べる分、興味が近いメンバーが集まり、お互い高め合える。これまで深く知る機会が無かった問題を知って、深めていけるのはとても面白いと感じた。最終回には、4クラス合同でのポスターセッションで自分が学び、深めた内容を他の学生や先生に発表する。

ここでは、手取り足取り教えるのではなく、学生自身で考え、行動するように促すことで、自身の足でゴールにたどり着く力をつけ、今後の大学生活や社会で通用する知と教養を身に着けた人材を育成する。

Q1 授業を行う上で意識していることはありますか？

私が意識していることは3つあります。

まず、『データを取ること』です。常に誰にとっても100%良い授業なんてありません。授業中にアンケートや授業の振り返りなど様々なデータを取ることで教員と学生の体感のズレを数字で科学的に確かめて、授業改善につなげています。

次に、学生と『コミュニケーションを取ること』です。授業のうち半分はできていない、という気持ちで毎回臨んでいます。その半分は細かな問いかけなど、コミュニケーションで作り上げていっています。

最後に、『常に新しい気持ちで挑むこと』です。教員が、学生の気持ちを理解するには限界があります。学生達は年度によっても全然違うし、同じ学生でも4月と7月ではまた違います。学生への思い込みを無くすことで、細かな変化に気づけるように心掛けています。

Q2 今の学生に対して思うことはありますか？

今の大学生は思考面がまだ不十分だと感じています。「おい、何頑張ってんだよ」という同調圧力があるのは今の学生の悪いところです。これからはAIに取って代わられない労働力を育てる必要があります。その中でも、コミュニケーションが取れる人材は取って代わられないと考えています。大学全体が効率重視になっている現在、学生は単位を取るだけに集中してしまいがちになっています。流れに逆らうようだけれど、考えて悩み、気付くことが大切です。決められたことを覚えてこなす教育は必要だけれど、その先のレベルは考えることが重要だと考えます。人との触れ合いから生まれる、コミュニケーションが社会に与える価値はお金に換えられないものだからです。

Q3 休日はどのようなことをされていますか？

昔はずっと論文書いたり、読んだりと研究していました。でも子供が生まれてからは時間的にも体力的にもできなくなりました。運動が元々好きなので、水泳、ヨガ、子供と走り回るなど、昔からしたら考えられないほど健康的に過ごしています。

Q4 最後に受講生や学生に伝えたいことはありますか？

何事も経験値。シミュレーションゲームみたいな感じです。1面クリアしないと2面には進めないように、現実のスキルも階段を登るように上達していく。敵に1面でぶつかっていれば、2面ではもっとうまく対処できるはず。できないことはまだ十分に経験していないだけ。生きていればいずれまた会う敵なんだから、大学生のうちに挑戦しておくべきだと思います。
とにかく行動！

担当メンバーより

近藤 創太 Kondo Sota
情報工学部 / 情報工学科

何事も経験値、という一言が特に響きました。これからの学生生活においても、まず行動を心掛けようと思います。

赤木 里騎 Akagi Riki
工学研究科 / 情報工学専攻

インタビュー中、研究者・母親・先生としての様々な顔を入れ替わり見せる中野先生に驚きました。

僕も「知と教養」受けたかった…！

Activity Report

2017.12 - 2018.11

2017.12

Q-Conference2017

Link up! ～つながろう、つなげよう、学びの未来に向かって～

2017年12月16日(土)に本学で行われたQ-conference2017 Link up! ～つながろう、つなげよう、学びの未来に向かって～に参加しました。ランチセッションやポスターセッションを通して初めて学外の方々にFIT-joinの活動を紹介しました。また他大学の参加者との交流や活動を知ることができ活動のヒントを得ることができました。

Q-conference2017に参加したことはFIT-joinが改めて今までの活動を振り返り、今後どのような活動をするべきなのかを考え、計画を立てるきっかけの１つとなりました。

2018.4

新入生オリエンテーション

2018年4月4日(水)～6日(金)に新入生が「本学で学ぶ自分なりの意味を明確に持ち、学生生活をスタートする」ことを目標に開催されたFIT-inセミナー(新入生オリエンテーション)に昨年に引き続き参加しました。
FIT-joinは新入生に新しい友達を作ってもらうこと、学内の施設の場所と利用方法を知ってもらうことを目的とした『FIT-Quest』の企画・運営を担当しました。

【FIT-Questとは？】

グループに分かれてお題に添って話し合い緊張をほぐし、仲を深めてもらうアイスブレイクと、ヒントを元に学内の指定された場所を巡りクイズに答えながらキーワードを集め、集めたキーワードを並び替えて先輩からのメッセージを受けとるオリエンテーリングを組み合わせたFIT-joinオリジナルのワークです!!

新入生からは「新たな友達ができた。」「施設の場所やクイズを通して利用方法を知れた。」「楽しかった。」と好評でした。

2018.6

FD Café ～教職員&学生懇談会～

2017年6月18日(月)にFD Café ～教職員＆学生懇談会～に参加しました。「授業外の学修について話をしよう！」というテーマのもと、29名(教員9名、学生8名、職員12名)が集まり、授業外の学修について意見交換を行いました。FD Café後のFIT-joinの振り返りでは、「自分では思いつかなかった新たな気づきがあった。」「自分自身の学ぶ姿勢を見直せた。」との意見がありました。今後もこのような形で教職員と学生が意見交換をする機会を作り続けたいです。

2018.7
2018.10

Join-Talks

第1回目(夏)を2018年7月23日(月)5限目、第2回目(秋)を10月26日(金)4限目に開催しました。ここでは、FIT-joinと学生との交流を図るとともに、学生の不安の解消や問題の解決などを上級生などと一緒に考えながら、学生の本音を聞くことを目的としています。毎回、開催時期に合ったテーマを設け学生が聞きたいことを聞けるようなイベントにしています。

夏『前期の振り返り ～学生生活での悩み～』

第1回目(夏)では、前期を振り返りながら自分自身の生活がどのようなものだったかを再確認してもらい、夏休みの過ごし方やこれからの大学生活につなげていけるような内容でした。参加学生からも、学科の先輩からの的確なアドバイスが好評でした。

秋『大学生活とアルバイト ～生活の見直し～』

第2回目(秋)では、アルバイトと勉強の両立をテーマに自分と他の人の生活を見比べてもらいながら、意見交換を行いました。日常的に時間外学習を行っている学生は少なく、平均1日6時間の自由時間を有効に使えていないという結果でした。

2018.8 学生FDサミット　in 京都光華女子大学

壊して作れ!!～やる気と無気力の壁～

2018年8月28日(火)～29日(水)に学生FDサミットが京都光華女子大学で開催され、FIT-joinのメンバー5名が参加しました。今回は、「壊して作れ!!～やる気と無気力の壁～」をテーマに、教・職・学を隔てる様々な『壁』について学生や教職員の垣根を越えた活動ができるようになるためにはどうしたらよいかをグループワーク形式で話し合い、グループ発表を行いました。学生と教職員が混ざってグループが作られていたので、教職員の視点からの意見がとても新鮮で興味深いものでした。また、他大学でも同じようなことが問題として挙げられていてこれからのFIT-joinの活動のヒントもたくさん得られたように感じました。

2018.11 FIT-joinキックオフミーティング

2018年11月16日(金)にFIT-joinキックオフミーティングを行いました。学長先生から委嘱状を交付されたFIT-joinのメンバーが今後のFIT-joinの活動目標や目的を再確認し、チームの共通認識を図るために開催されました。FIT-joinのメンバーをはじめ、松尾先生や松木先生、土屋先生も参加していただき、学生側の質問に対して意見交換を行うなどあっという間の1時間半でした。終了後には、先生方から学生側から積極的に話しかけてほしいといった言葉などをいただくことができ、教職員とFIT-joinメンバーの距離がこれまでよりも一段と近くなったように感じました。

編集後記

FIT-joinとしての学生FD活動を通して、これまで様々な活動やイベントを行ってきましたが、刺激されることがたくさんありました。この1年で教職員の方々との距離がさらに近くなったような気がします。特に、先生方とは教員インタビューをはじめ、様々な先生方とお話しをする機会が多くあり、先生方の教育改善に向けた意欲と努力がものすごく感じられました。そこにFIT-joinとしてどのように関わっていくべきなのかがこれからの自分たちの課題なのかなと思います。これからが本質的な学生FDのスタートであると、今は感じています。教職員の方々と忖度なく意見が言い合える関係に少しでも近づけるように頑張っていきたいと思いました。

FIT-join(製作担当)　豊福 慶大

Members　メンバー紹介

Tsuruno Yutaro
4年
社会環境学部
社会環境学科

Shimasaki Sachi
4年
情報工学部
ｼｽﾃﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科

Toyofuku Keita
4年
情報工学部
情報工学科

Kyan Sakiyo
4年
工学部
電子情報工学科

Nakayama Ayumi
4年
社会環境学部
社会環境学科

Tamashiro Kakeru
3年
情報工学部
情報工学科

Iwahashi Yusuke
3年
情報工学部
ｼｽﾃﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科

Kondo Sota
3年
情報工学部
情報工学科

Matsunaga Kaiki
3年
情報工学部
ｼｽﾃﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科

Hirakawa Shota
1年
工学部
電子情報工学科

Takaki Tomohiro
3年
工学部
電子情報工学科

Kinohara Yuma
2年
工学部
電気工学科

Akagi Riki
院2年
工学研究科
情報工学専攻

総勢13名で活動しています！
一緒に活動してみませんか？

FIT Fukuoka Institute of Technology 福岡工業大学

発行元：福岡工業大学　FD推進機構
〒811-0295　福岡市東区和白東3-30-1　E棟3階
TEL：092-606-7370　FAX：092-606-7379
Mail：o-fd@fit.ac.jp　Web：http://www.fit.ac.jp/
発行日：2018年12月14日
編集・作成：FIT-join（学生FD）・FD推進機構